

2011年3月24日

報道関係各位

国立循環器病研究センター

## 循環器専門医による電話相談の受付について

— たこつぼ型心筋症/ Takotubo Cardiomyopathy と肺血栓塞栓症への対策 —

国立循環器病研究センター(大阪府吹田市、理事長:橋本信夫)は、震災後に発生頻度の増えることが予想される循環器病疾患に関しまして、直通電話(ホットライン)を開設し、循環器専門医による電話相談を受けることとしました。

震災後に発生頻度の増える循環器病疾患の一つである『たこつぼ型心筋症』は、1990年に日本で初めて報告され、2006年に発生した新潟中越地震の震災直後に発生が多く報告されております。精神的な過度のストレスを受けた後に、心臓筋肉が収縮しにくくなり、正常に血液を送り出すことができなくなる状態です。

心臓の動きが悪くなった形が、たこ漁で使われるたこつぼのような形に見えるため、この病名がつけられました。突然大きなストレスがかかると、自律神経が極度に混乱し、心臓の一部が硬直し動かなくなってしまう、心筋障害となってしまいます。阪神淡路大震災や新潟中越地震の時に、被災者の中から主に中年女性の方に、たこつぼ心筋障害の疑いありと診断されました。こうした大きな災害以外にも、肉親や友人の死、激しい口論、仕事上の問題や、娘の離婚など、様々なストレスによる発症が報告されています。突然の胸の痛みや圧迫感、呼吸困難は心臓発作(心筋梗塞)にも似ています。

この『たこつぼ型心筋症』と同様に発症が増えることが予想される肺血栓塞栓症への対策や、その他の循環器疾患についてご相談いただいても構いません。

- 循環器疾患相談ホットライン(午前8時から午後5時まで) 国立循環器病研究センター ●090-5668-9407  
●090-5668-9417
- 随時ご相談をお受けいたします。なお、医療者からのご相談に限定させていただきます。
- 実施期間は平成23年3月25日～4月30日までとし、その後の実施については状況により判断します。

※この報道資料は、大阪科学・大学記者クラブ、その他報道関係の皆様にお届けしています。

### 【申込・報道機関からの問い合わせ先】

国立循環器病研究センター

(代表)06-6833-5012 (夜間・休日) 06-6833-5015

総務課 広報係 (内線 8496)

小林 良平(コバヤシ リョウヘイ)

## 東北関東大震災被災地で診療にあられる先生方へ

### 『たこつぼ型心筋症 / Takotubo Cardiomyopathy と肺血栓塞栓症への対策』について

平成 23 年 3 月 11 日に発生いたしました、東北関東大震災に関しまして心よりお見舞いを申し上げます。日本循環器学会・日本心臓病学会といたしましても、被災地で実際に診療にあられる先生方へご協力をさせていただくために、震災後に発生頻度の増えることが予想される循環器病疾患に関しまして情報提供をさせていただきます。被災地での診療は過酷であろうと拝察いたしますが、診療の一助となりますことを願っております。

『たこつぼ型心筋症/Takotubo Cardiomyopathy』は 1990 年に本邦で初めて報告され、2006 年に発生いたしました新潟中越地震の震災直後に発生が多く報告されております<sup>1</sup>。明らかな**原因**は未だ明らかになっておりませんが、ストレスによる内因性的カテコールアミンの増加などの関係が考えられており、**震災後**などに多く発生する可能性のある循環器疾患です。**症状**は、突然の胸痛から始まり狭心症、心筋梗塞などによく似た症状を呈します。**診断**は、心電図における虚血性変化所見（初期の広範囲の ST 上昇と、その後速やかに出現する巨大な陰性 T 波）および心臓超音波検査による特徴的な心室基部の過度の収縮と心尖部広範囲におよぶ収縮低下を手掛かりに、狭心症、心筋梗塞との鑑別を最優先に行う必要があります。冠動脈造影(正常冠動脈)と特徴的な左室造影所見で診断されます。**治療**は、ストレス要因の除去と安静です。**予後**に関して明らかなデータはありませんが、実際に新潟中越地震発生後に発生した、たこつぼ型心筋症 16 例(男性は 1 例のみ)の報告では、震災発生の平均 5 日後に胸痛や呼吸困難を主訴に発症しました。治療後は深刻な心不全や致死性の不整脈の発生を認めず、発症より平均 23 日後に左室収縮能は改善し、全員が独歩退院をいたしております<sup>2</sup>。ただし、たこつぼ型心筋症は循環器専門医でも診断に苦慮する場合がございます。そこで、被災地にて診療にあられる先生が、お近くに循環器専門医がいない場合でも、循環器疾患の診断および治療に苦慮した際にご相談いただける窓口開設いたしました。日本心臓病学会所属の循環器専門医がメールでの対応にあたります。

また、国立循環器病研究センターの全面的な支援を受け、専門医によりホットライン電話による相談を受けることとしました。また同様に発症が増えることが予想される肺血栓塞栓症への対策や循環器疾患についてご相談いただいても構いません。また日本循環器学会で循環器疾患の受け入れ応需情報を作成しています。下記情報をご使用下さい。

循環器疾患相談ホットライン（午前 8 時から午後 5 時まで）：国立循環器病研究センター

●090-5668-9407

●090-5668-9417

メール相談（日本心臓病学会）：[owner-jcc-shien@mma.so-net.ne.jp](mailto:owner-jcc-shien@mma.so-net.ne.jp)

ホームページ（日本循環器学会応需情報）：<http://www.j-circ.or.jp>

随時ご相談をお受けいたします。医療者からのご相談に限定をさせていただきます。

文献

1. H. Watanabe, et al. Impact of Earthquakes on Takotsubo Cardiomyopathy JAMA. 2005;294(3):305-307.
2. M. Sato, et al. Increased incidence of transient left ventricular apical ballooning after the mid-Niigata Prefecture earthquake. Circ J. 2006 Aug;70(8):947-53.